

消防だより



7月の広報テーマ
「花火による火災の防止」

119

花火で火事になる
ことがあるの？

枯れ草に燃え移つたり、建物に飛び込んで出火したりと、花火が原因の火災が一年間に約100件も起きています。

花火をする時は必ず水バケツを用意し、大人といっしょにやりましよう。

また、風の強い日には花火をしないなど、まわりの安全をよく確認して後始末をきちんとするようにお願いします。

携帯電話からの119番通報
が消防署へつながります!!

事例1 「打ち上げた花火がベランダに落下し出火」

路上で打ち上げ花火を上げたところ、花火の火の粉が共同住宅2階のベランダに置いてあった衣類に落下し着火。

事例2 「使用後の花火から出火」

公園で花火をした後、水につけてそのまま立木の幹の空洞内に捨てたため、花火の残り火

現 在まで、虻田町から携帯電話で119番をダイヤルすると苦小牧市の消防署へつながっていました。

19番通報は、虻田町の消防署へ直接つながるようになります。

消防署では、一般家庭からの

が立木の空洞内の枯れた部分に着火し出火。

事例3 「花火により着衣着火した火災」



路上で母親と一緒に花火をしり回し遊んでいたところ、そのうち1本が手から離れたため、その場にいた乳幼児の肩に接触し、着衣に着火。

電話による119番通報と同様にまず火災か救急かをお聞きし、それから場所の確認を行いますので、自分の携帯電話の番号を覚えておく事も大事になります。

電話による119番通報と同様にまず火災か救急かをお聞きし、それから場所の確認を行いますので、自分の携帯電話の番号を覚えておく事も大事になります。

住宅用火災警報器で早期発見!!

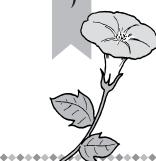
火災で重要なのが早期発見です。火災が発生したことを素早く察知することができれば、いち早く避難することができます。

住宅用火災警報器は、火災発生に伴う熱や煙を感じてブザーで危険を知らせるもので、火災の早期発見に非常に役立つ防災機器です。諸外国でも大変な効果を上げています。



わたしのうた

短歌【あぶた短歌会】五月定例会より



風荒き海に白波きわ立ちて
ノットコの山に鳴きるし郭公が

今日は近くの林に聞こゆ

伊藤 静子

影絵のごとき駒が岳見ゆ
赤塚 瑛子

春とも思へぬ冷たさに逢ふ
山木 孝

斎藤 テツ

大声で友を呼んでる夢の中
木蓮は風の吹くまま惜しみなく

石 黒 まさ子

目覚てむなし失せし声帶
花びら散らし春もたけなわ

太田 智

桜咲く自転車道を孫と漕ぐ
旅先の老婆の注げる濃き番茶

北島 加代

木蓮は風の吹くまま惜しみなく
花びら散らし春もたけなわ

大久保 とみ乃

桜咲く自転車道を孫と漕ぐ
旅先の老婆の注げる濃き番茶

室野 晃風

木蓮は風の吹くまま惜しみなく
花びら散らし春もたけなわ

中野 イマ

木蓮は風の吹くまま惜しみなく
花びら散らし春もたけなわ

大西 芳子

木蓮は風の吹くまま惜しみなく
花びら散らし春もたけなわ

太田 智

木蓮は風の吹くまま惜しみなく
花びら散らし春もたけなわ

北島 加代

木蓮は風の吹くまま惜しみなく
花びら散らし春もたけなわ

大久保 とみ乃

木蓮は風の吹くまま惜しみなく
花びら散らし春もたけなわ

中野 イマ

木蓮は風の吹くまま惜しみなく
花びら散らし春もたけなわ

大西 芳子

木蓮は風の吹くまま惜しみなく
花びら散らし春もたけなわ

太田 智

木蓮は風の吹くまま惜しみなく
花びら散らし春もたけなわ

北島 加代

木蓮は風の吹くまま惜しみなく
花びら散らし春もたけなわ

大久保 とみ乃

木蓮は風の吹くまま惜しみなく
花びら散らし春もたけなわ

中野 イマ

木蓮は風の吹くまま惜しみなく
花びら散らし春もたけなわ

大西 芳子

木蓮は風の吹くまま惜しみなく
花びら散らし春もたけなわ

太田 智

木蓮は風の吹くまま惜しみなく
花びら散らし春もたけなわ

北島 加代

木蓮は風の吹くまま惜しみなく
花びら散らし春もたけなわ

大久保 とみ乃

木蓮は風の吹くまま惜しみなく
花びら散らし春もたけなわ

中野 イマ

木蓮は風の吹くまま惜しみなく
花びら散らし春もたけなわ

大西 芳子

木蓮は風の吹くまま惜しみなく
花びら散らし春もたけなわ

太田 智

木蓮は風の吹くまま惜しみなく
花びら散らし春もたけなわ

北島 加代

木蓮は風の吹くまま惜しみなく
花びら散らし春もたけなわ

大久保 とみ乃

统一標語は「火は消した?
いつも心にきいてみて」

俳句【あぶた俳句会】六月定例会より

サングラス掛けて赤子に嫌われる
なが梅雨に農夫見上げて顔歪む
走り茶を供へ朝餉も香りたつ
乾きたる土に若葉の影さわぐ
ヨサコイと連なる父の日の不運
四度目はもう戻らぬか夏帽子
春肥時く臭ひも入れてミルク飲む
老鶯の声さがりくる狭庭かな
新調のサングラス得て子に戻る

瀬川 潤
小笠原 那須伶
菅原敏伶
岩木子勇稔
井村修子
三瓶秋子
塩川育子
矢野修子
白井子子
みえ子